いのちと地域を守る

防災・減災のページ

子どもと気付く 災害への備え

第123回巡回ワークショップ ＠仙台・福室児童館

公園にある防火水槽を見つけて地図にメモをする児童ら

七北田川沿いを歩いて危険箇所を調べる児童ら＝10月17日、仙台市宮城野区福室

実際に体験 何より大事

福室市民センター児童館館長　伊藤浩太郎さん（61）

東日本大震災を経験した先生や子どもたちが減っている中、あの時の経験を次代につなげないといけない。

家族や友達とも話そう

日本損保協会東北支部事務局長　松代　貴史さん（56）

最初は何が危険で、何が役に立つのか分からないと言っていた子どもたちが、次々といろいろな発見をし、考えていた子どもの見つけるのは本当にすごい。今回だけで終わらせるのではなく、家族、学校の友達とも防災を話題にしてほしい。常に防災意識を持ち続けることができれば、交通安全にもつながるし、大人になった後もより良い町をつくっていける。活躍を期待したい。

助言者から

「なるほど」分け合おう

河北新報社教育・防災連携室（前館長）　中辻　正樹さん（66）

福室児童館と児童クラブのみんなは、とてもよく頑張った。最初に防災の大切な知識を勉強し、そして見て、聞いて、触って、それを元に地域にしっかりと目を向けながら歩くこと、防災のできる様子を見てもらった。草がいっぱいだと見た目悪いだけでなく、ごみ捨て場になったり、不法投棄されたりもする。それが何のために必要なのか肌で感じることができたと思う。せひ友達に伝えて「なるほど」を分け合おう。それがこれからの楽しい夢のある暮らしにつながる。

水路の清掃 減災の一歩

福室新田前町内会長　鹿野　裕美さん（69）

大雨のときに水の流れが悪くなって、水があふれます。水路をきれいにしておくことは、防災のためにも、とても大事だ。

皆さんは地域を探検して、学んだことや知ったことがたくさんあると思う。自分の心の中に止めておくのではなく、参加した友達に教えてほしい。

「危ない場所教えたい」

（後列左から）小巻望結さん、赤間汐莉さん、宮崎優斗さん
（前列左から）菊地真永さん、荒木地運さん、佐々木花さん

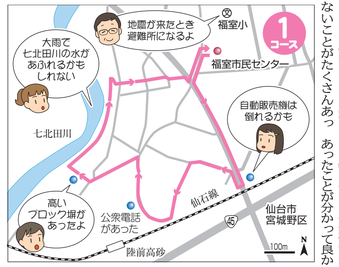
探検で、知っている場所の塀をよく見たら、少し傾いていた。急いで通るときに通っている道なので、危ないと感じた。普段は気にしていない防火水槽や消火栓が、こんなに身近にあったことが分かって驚いた。今日、見つけた危ない場所を母にも教えたい。（福室小5年　赤間汐莉さん　11歳）

「ブロック塀たくさん」

（後列左から）宮崎陽翔さん、伊藤希宮さん、佐藤春希さん（前列左から）菅原ひまりさん、熊谷星さん、関根瑞さん

福室にブロック塀がたくさんあることが分かった。消火栓もいろんな場所にあってどんな風に使うのか見たいと思った。（福室小5年　宮崎陽翔さん　11歳）

「公衆電話試してみる」



（後列左から）佐々木まいさん、森凑大さん、浜想太さん
（前列左から）尾形妃菜さん、大塚南和さん、荒木地翔さん

どこに何があるか、知らないことがたくさんあった。特に公園に公衆電話があったことが分かって良かったけれど、使ったことがない。一度試して使い方を覚えようと思う。今回歩いた場所は自分の家から遠い。家の周辺で家族と一緒に歩いて点検したい。（福室小5年　浜想太さん　11歳）

防災マップ作りで地域を探検

むすび塾

地域を歩き 危険を確認

河北新報社は10月17日、通算123回目の防災ワークショップ「むすび塾」を仙台市宮城野区の市福室市民センター・児童館で開いた。日本損害保険協会（東京）の安全教育プログラム「ぼうさい探検隊」を取り入れ、地域の小学1～5年生18人が街を歩いて危険箇所などを調べ、防災マップを作った。

危ないところや役に立つものを地図に記す児童ら＝10月17日、福室市民センター・児童館

地元町内会関係者、仙台市内の団体「災強のすけっと」のメンバーが運営をサポートした。陸の大学の医学部生らでつくった。

児童たちは3班に分かれて、児童館を発点とするコースを探検、ブロック塀や自動販売機のほか、公衆電話や防災倉庫などの場所も確認した。

1班は太白区の佐藤義一さんの案内で、中野中の横断し、市営住宅、中野中の内会の鹿野裕美会長は堤防沿いを巡った。福室新田前町で、東日本大震災のときに津波が七北田川をさかのぼったことを説明。「大雨だけでなく、地震の後も川は危険。見に来ては駄目だよ」と強調した。

道のあちこちに整備されたマンホールは、大雨が降るとふたが外れたり、水が噴き出したりする危険があることを学んだ。

「津波避難ビル」の表示を見つけた低学年の児童が、「何て書いてあるのの？」と質問する場面もあった。大人たちから「子どもでも読めるようにしないといけない」「一人だけだったら気付けなかった」などの声が上がった。

3班は福室小への近道に使われる細い路地の周囲を観察。わずかに傾いているブロック塀や、用水路を確認し、雨水が流れているときは近寄らないことを決めた。

高砂東市営住宅には、津波避難ビルになっている。2階以上の階段や廊下といった共用部分が避難スペースだ。津波警報が出たら海からできるだけ離れ、できるだけ高い場所に避難する」と約束した。

コースは全体的に交通量が多かったり、道が細かったり、交通事故が心配される。仙台市地域防災リーダーの本郷文夫さんは「特に国道45号からJR仙石線の踏切付近を通るときは、車に注意して」と呼びかけた。

児童館に戻った後、防災マップの作成に取り組んだ。災害時に注意が必要な場所や、役立ちそうなものなどを地図に記入して完成させた後、各班の代表が探検の成果を発表した。

（須藤豪毅、瀬戸々真子、越中谷郁子）

損保協会のぼうさい探検隊

「ぼうさい探検隊」は日本損害保険協会（東京）の安全教育プログラムで、児童たちが地域を歩き、防災、防犯、交通安全に関する危険箇所や役に立つ施設を調べ、マップを作成する。

河北新報社は2014年から協会と連携し、探検隊のノウハウを活用したむすび塾を開催している。

損保協会は毎年、ぼうさい探検隊マップの全国コンクールを行っている。

サポート役の「災強のすけっと」

子どもの感性に学ぶ

東北医科薬科大5年　鈴木結子さん（23）

子どもたちは大人よりも先に避難場所を見つけたり、マンホールを指さして「大雨で水が噴き出すんだよ」と教えたり、防災のことを新鮮に感じて、発見を楽しんでいるようだった。子ども向けの活動をすることが多いので、体験を今後の参考にしたい。

大人に影響 地域の鍵

福島県立医大4年　張野春菜さん（23）

子どもと一緒に災害時に危険な場所や役立つものを探して、勉強になったし、何よりも楽しかった。子どもの行動や発信力は、友達だけでなく、大人にも影響を与える。子どもが防災を学ぶことが、地域全体の防災力の向上につながるのではないかと思った。